

健康コーナー

わかりやすい東洋医学講座

第34回 肺と脾

東洋医学の基礎理論③④

肺と脾

【肺と脾の正常な関係】

気の生成と津液代謝において、脾と肺は協力・依存関係にあります。

(1)「気の生成」：後天の気は、脾の運化によって水穀から水穀の精微に変えられ、水穀の精微と肺によって取り入れられた清気が、合流して後天の気や宗気が生まれます。(図1)

(2)「津液代謝」：脾が飲食物から水分を吸収して、運化作用により津液にし、さらに昇清作用により肺まで運び上げ、肺は肅降作用により腎まで配られます。

津液の通路を水道と云いますが、水道を調節する肺の作用を通調水道と云います。通調水道作用によって津液を全身にうまく流れるように調節し、肺は水の巡りに重要な働きをしています。さらに肺は、津液の一部を宣散

作用によって汗となって体外に排出します。このように津液の生成と配布は、脾と肺の共同作用によって行われます。

(図2)

【肺と脾の病的関係】(図3)

肺と脾は、このように密接に関係しているために、病的な状況においても相互に影響を及ぼしあい、最終的に気の生成不足や水液代謝の失調に陥りやすくなり、二つの病態が同時に発現します。そのため肺気虚と脾気虚の合併症がよく見られ、脾肺気虚証と呼ばれています。

例えば、飲食不摂生などで脾気虚(脾気が不足)になれば、肺を養う気が不足して肺気虚(肺気不足)になりやすくなります。慢性的な咳嗽などで肺気虚になると、脾の活動の活力となる宗気の生成が低下して脾気虚になります。一方、肺気虚になると津液の配布が停滞して肺内に痰飲を生じ、痰や咳嗽が出現します。また脾の昇清作用や運化作用の低下があれば、津液代謝が失調して水液が停滞

し、集まって痰飲となり、肺の宣散肅降に影響が及んで喘咳(喘鳴や咳嗽)や痰多(喀痰量の増加)などの症状が現れます。脾気虚になると、飲食物から水分がうまく吸収されず、下痢などを生じます。

(1)肺気虚証：肺内に津液が貯留して咳嗽・

白色や水溶性の多痰・息切れ・呼吸困難、肺気虚のため衛気が低下して、自汗(じっとしていても汗をかく)や盗汗(寝汗)、風邪を引きやすい等の症状が出現します。さらに倦怠感・顔色不良、弱々しい声などの気虚症状も出現します。(図4)

(2)脾気虚証：消化作用が低下して食欲不振、胃もたれ・下痢・四肢のだるさを生じます。(図4)

治療法：脾気虚が主体の場合、六君子湯、風邪を引きやすいなどの衛気の低下や中気下陷(内臓下垂など)には補中益気湯、風邪を引きやすい、寝汗の治療には玉屏風散、脾気虚証の方の感冒には參蘇飲を用います。

【水液代謝と臓腑の関係】

水液代謝は、主に前述の肺や脾の他に腎の三臓が担っています。したがって水液代謝に異常が現れた場合、三臓のいずれかに問題があることが多いです。上焦に異常がある場合は肺を、中焦に異常がある場合は脾を、下焦に異常がある場合は腎を治療します。

(1)肺：肺に異常があると、津液が上焦に停滞するために、顔や眼瞼が急に腫れる、咽喉部が赤く腫れる、咳、発熱などの症状を呈します。このような場合、越婢湯などで肺の宣散肅降を回復させる治療を行います。

(2)脾：脾の運化作用が低下すると、津液が中焦に停滞して脾に湿が停滞し、食欲低下、下痢、腹水などの症状を呈します。このような場合、脾の運化作用を回復させて水液代謝を改善させる必要があります。代表的な方剤に実脾湯があります。

(3)腎：腎に異常があると、津液が下焦に停滞するために、下半身の浮腫や排尿

異常を呈します。このような場合、腎陽を補助して水液代謝を改善させる必要があります。代表的な方剤に真武湯があります。

*下腿や足の浮腫が主に片側に現れたら、西洋医学では、DVT(Deep Vein Thrombosis: 深部静脈血栓症)を疑います。西洋医学では、アリクストラなどの抗凝固薬を用います。東洋医学では、血瘀と捉えて、丹参、川芎、鬱金、益母草、桃仁、紅花、牛膝、延胡索(気の巡りをよくする行気作用あり)などの活血薬を用います。

図1 脾と肺による宗気の生成

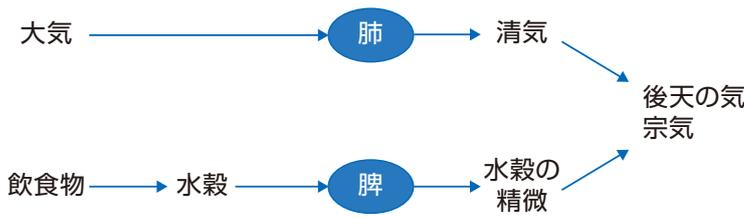


図2 津液の代謝

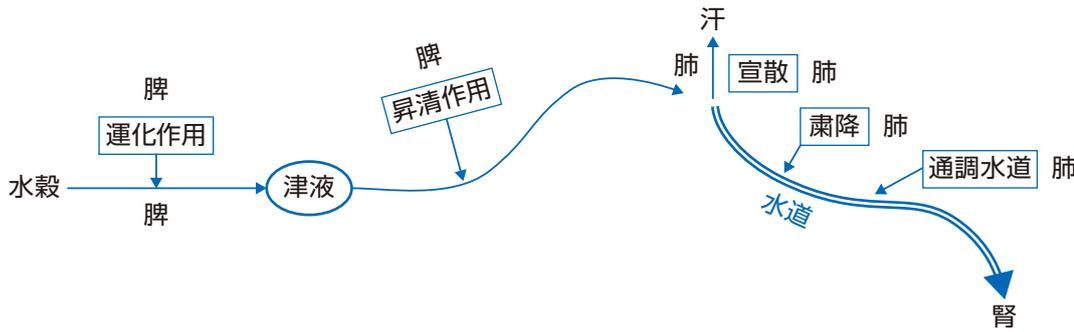


図3 肺と脾の病的関係

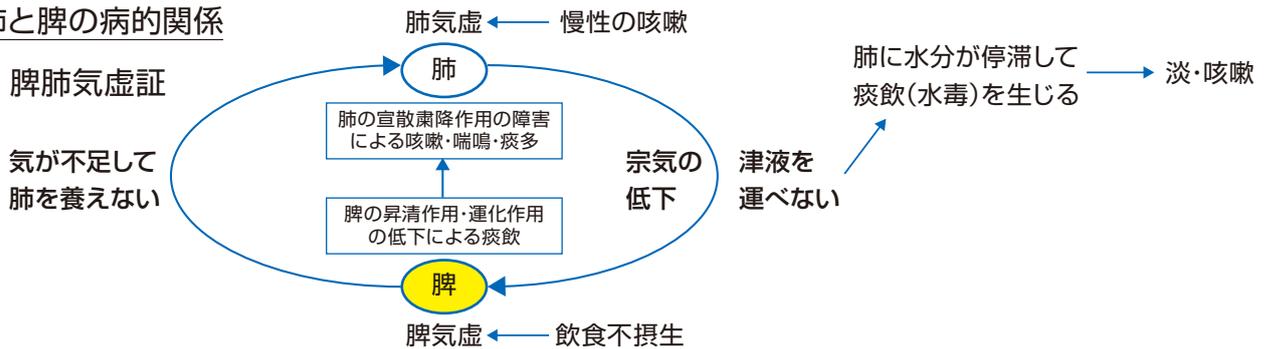


図4 肺気虚と脾気虚

肺気虚	咳嗽・白色痰・息切れ・自汗・盗汗・風邪引きやすい・倦怠感・顔色不良・弱々しい声
脾気虚	食欲不振・胃もたれ・下痢・四肢のだるさ



医療法人社団和漢全人会花月クリニック

昭和26年 北海道江差町に生まれる
 昭和50年 千葉大学薬学部卒業
 昭和57年 旭川医科大学卒業
 平成 4年 医学博士取得
 平成10年 新十津川で
 医療法人和漢全人会花月クリニック開設
 日本東洋医学会 専門医
 日本糖尿病学会 専門医
 日本内科学会 認定医
 日本内視鏡学会 認定医



医療法人和漢全人会
 花月クリニック
 日本東洋医学会専門医
 医学博士
 辻和之